令和６年度　ハイジこども園自己評価

「幼保連携型認定こども園教育・保育要綱」第１章総則第２節、２（４）に基づきこども園の自己評価が位置付けられています。自らの教育・保育実践と子どもの育ちの振り返り、自己評価を行います。その結果を、次の教育・保育に向けて改善を図り教育・保育の質を向上させることを目的とします。

＜評価方法＞

日頃の保育・教育を振り返りながら、次の各項目について保育教諭自身が出来ているかを４段階で自己評価する。

【４：理想的な状態で実施できている　３：ほぼ独力でできている

２:周囲にフォローを貰いながらできている　１:未経験、またはこれから習得する】

内　容	評　価	内　容	評　価
１、基本的理念と社会的責任	2.95	９、食育の推進	3.02
２、保育の配慮事項	3.10	１０、安全管理	3.16
３、計画・評価・育ちの見通し	2.93	１１、環境・衛生管理	3.27
４、特別支援・障がい児保育	2.77	１２、災害対策	2.88
５、乳児保育のねらいと内容	3.16	１３、家庭との連携（在園児）	3.23
６、１～３歳未満のねらいと内容	3.12	１４、家庭との連携（地域）	2.52
７、３歳以上児のねらいと内容	2.99	１５、職員の資質の向上	2.95
８、健康支援	3.18		

・全体的に 15 項目とも平均して「３」の「ほぼ独力でできている」の評価結果がでた。

その中で特に高い項目は環境・衛生管理に関することである。園内が清潔に保たれ、室内の温度、湿度、換気、採光などを適宜調整し、感染症対策を徹底していること。また、子ども達が心地良く過ごせるように保育教諭が工夫したり、考え、自身も実践していると自己評価している。この事はこども園の目標であり、１日を安全に楽しく過ごすことができるようにすることは基本的なことであり、保育教諭もそう考え、実践していることから保育教諭共に目標が一致し共有していると考える。

次に高い評価は「家庭との連携」となっている。これは保護者と保育教諭がいかにコミュニケーションを取っているかの評価である。保育教諭として子ども達の成長に家庭環境の把握が重要であり、保護者との連携を大切にし、実践していることが伺える。

「健康支援」に関しては園児の健康に関する最優先事項であり、基本的な項目であることから、こども園として今後も継続していく。

※今後の課題として※

「家庭との連携（地域）」は地域の人々との子育てに関する交流などであるが、普段の保育教育活動の中では交流する場面が少ない。今後、保育教育活動の中で地域との交流が行えるような内容を検討していく。

子育て支援に関しては平成３１年４月からスタートしている。年々参加者も多く、定着してきており、その内容も充実してきた。その活動に関しては関係機関、行政等からも高く評価されるようになってきている。園全体で情報共有し、さらにステップアップが図れるように強化し、また、園活動を地域へ広く発信するために今後の取り組みを検討していく。

保育教育の基本的な知識・技術としての「計画・評価・育ちの見通し」「ねらいと内容」「配慮事項」などに関して、更に高評価が得られるように、保育教諭一人一人と面談を行い、それぞれが抱えている課題等について検討する場面を設定していく。また、それぞれの項目ごとにスキルアップできるように、保育教諭の研修や園内研修等を強化していく。丁寧に検討していく。

※評価※

・こども園にとって最大優先である子どもの健康、安全、環境、衛生管理に関しては保育教諭の自己評価から、高評価であったことは安心材料である。これはこども園としての方針、目標が保育教諭に理解され、実践されていると考える。今後もさらに強化しいてく。

・保育教諭の知識、技術、評価計画等に関する項目は「周囲にフォローを貰いながらできている」が多い。更なるステップアップを図るためには、保育教諭一人一人と面談し、それぞれの項目別の課題等を洗い出し、改善策を計画していく。

また、園外、園内研修等を充実させ、保育教諭全体のスキルアップの強化を図る。

・年１回の自己評価は保育教諭の普段の活動の反省、振り返りに繋がり、次年度の計画、活動に活かされているとの声が多い。